

## 令和七年度学位記授与式式辞

皆さん、ご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。

春の訪れとともに、キャンパスの桜も蕾を膨らませています。この佳き日に、滋賀県立大学並びに大学院の令和七年度学位記授与式を挙行し、学士五八〇名、修士一二〇名、博士一名、計七〇一名の皆さんの榮譽を讃えられますことは、本学にとって大きな喜びであります。ご来賓の皆さま、本学教職員とともに、心よりお祝い申し上げます。また、ご参列いただきました保護者の皆さまにも、心からお祝いを申し上げます。

さて、本学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」人が育つ大学となることを理念として歩んで参りました。そのような本学で学び、今日この日を迎えられたことを、どうか誇りに思ってください。

予測が難しく、先の見通しにくい時代です。そのような時代においては、本学での実践的な学びを通じて身につけた「他者への思いやりの心」と“地”に足のついた専門性が、皆さん一人ひとりの人生を切り拓く大きな力になると、私は信じています。

昨年、一昨年 of 学位記授与式では、専門性は皆さんの武器となる一方で、時に弱みにもなり得る、というお話をしました。今年は少し視点を変え、「モデルを賢く使う心得」、そして「知能と知性の違い」についてお話ししたいと思います。

現代に暮らす私たちの身の回りには、さまざまなモデルが存在しています。たとえば、天候を予測する気象モデル、経済や金融の動きを説明するモデル、感染症の広がりを予測する疫学モデルなどです。私自身も、研究者として歩み始めた頃は、廃水処理プロセスを数式で表し、処理性能を予測するモデル化とシミュレーションを専門としていました。

近年、私たちの日常生活の中に入り込んできた生成 AI も、モデルの一種です。たとえば、ChatGPT は「大規模言語モデル」と呼ばれるモデルに基づいて動いています。

生成 AI がモデルだと言われると、戸惑われる方もおられるかもしれません。けれども、「モデル」という言葉には、「お手本」という意味もあります。そう考えれば、「ある問いに対して、何らかの答えや指針を示してくれるもの」は、すべて広い意味でモデルと呼ぶことができるのです。

ただし、モデルについては、統計学者ジョージ・ボックスの有名な言葉があります。

「すべてのモデルは間違っている。だが、そのうちのいくつかは役に立つ。」

モデルとは、現実をわかりやすくするために、あえて単純化したものです。そのため、その答えが完全に正しいのは、ごく限られた条件のもとにおいてだけ、ということになります。

例えば、まちづくりにおいては、「地域の活性化のためには『若者』『ばか者』『よそ者』が必要だ」という、よく知られた言葉があります。これも、まちづくりの方向性を示すという意味では、れっきとしたモデルです。しかし、この言葉が、常に、どの地域でも成り立つとは限らないことは、容易に想像できるでしょう。

このように、「モデルは正しいとは限らない」という慎重な姿勢が必要になります。一方で、完全に正しくなくても、実際の判断に役立つモデルがあるのも、また事実です。

大切なのは、「何のためにそのモデルを使うのか」という目的を見失うことなく、どのモデルが役に立つのかを見極める力です。皆さんがこの大学で学んできた数々の理論や方法論も、そういった広い意味

でのモデルです。これからの皆さんを支える大きな力となります。しかし、妄信することなく、使い方を誤らない注意が必要です。

さらに、生成 AI と共に働くことが当たり前になるこれからの時代において、モデルのように「答えのある問い」に答える力、すなわち「知能」だけを磨いていても、十分だとは言えません。答える速さや正確さという点では、人間はすでに人工知能に及ばないからです。

これから人間に求められるのは、「答えのない問い」に向き合う力です。何を問うべきか。どのような答えが望ましいのか。それを考え続ける力こそが、知能を超えた能力であり、私たちが「知性」と呼ぶものです。

皆さんは本日、それぞれの分野における専門性、すなわち一定の知能を身につけ、卒業・修了の日を迎えられました。今だからこそ、学んできたことの限界と賢い使い方を理解し、社会に出てからも、自らの知性を磨き続けていただきたいと思います。皆さんが、これからの社会を支え、形づくる存在として活躍されることを、心から期待しています。

最後に、申し上げます。滋賀県立大学は、皆さんの母校です。私たち教職員は、いつでも、いかなるときでも、皆さんを歓迎します。迷いや挑戦のとき、この場所が変わらず皆さんを見守っていることを、どうか思い出してください。

ご卒業、ご修了を改めてお祝いするとともに、皆さんの前途に幸多きことを祈念し、式辞といたします。

令和八年三月二十日

滋賀県立大学 学長 井手慎司